



No.29

UT University Forests News

科学の森ニュース

July 4, 2005

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

第6回西東京市「子ども樹木博士」認定活動

田無試験地

初夏を感じさせる陽気に恵まれた6月5日（日）、田無試験地では標記の活動を実施しました。地域の市民団体「東大農場・演習林の存続を願う会」との共催により、足掛け4年を迎え恒例行事となった今回、近隣市区からも多数の参加者を得て、総勢32名の子どもたちが「子ども樹木博士」に挑戦しました。木の名前もさることながら、試験地内の「探検」を通して普段何気なく見過ごしていた樹木の横顔を発見し、皆目を輝かせていました。身近にある木を入口として、この先も子どもたちが森に親しみ続けてくれることを願ってやみません。



さあ、何の木かな？

「科学の森ニュース」のカラー版(pdf形式)を東京大学科学の森教育研究センター(演習林)のホームページからダウンロードすることができます。(http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/)

お知らせ

ワサビ沢展示室特別開室

秩父演習林

日 程

平成 17 年 7 月 16 日(土)、7 月 17 日(日)の
10 時～15 時

内 容

国道 140 号線沿いの出会いの丘休憩施設 2 階にある秩父演習林「ワサビ沢展示室」を自由に見学していただけます。当日は秩父演習林の概要、研究・教育活動などについて展示を見ながらのガイドも行います。

その他

無料、当日受付のみ(事前の申し込みは必要ありません)

問い合わせ先

東京大学秩父演習林・企画調整係
TEL 0494-22-0272
E-mail chichibu@uf.a.u-tokyo.ac.jp

高校生のための森と海のゼミナール

高校生のための森と海のゼミナール実行委員会

開催場所

東京大学科学の森教育研究センター千葉演習林、
千葉大学海洋バイオシステム研究センター

開催場所

平成 17 年 7 月 26 日(火)～28 日(木)

集合解散

JR 外房線 安房鴨川駅 または JR 久留里線 上
総亀山駅に 26 日 13 時集合、28 日 13 時頃解散

参 加 費 5,000 円

対 象 高校生、定員 20 名(先着順)

申し込み方法

氏名、住所、生年月日、性別、所属高校、学年、
保護者連絡先、本人連絡先(携帯電話等)、靴の
サイズ、希望集合場所を書いて下記申し込み先
まで。郵送・FAX・E-mail いずれも可

申し込み締切

平成 17 年 7 月 15 日(金)

申し込み・問い合わせ先

高校生のための森と海のゼミナール実行委員会
代表者 山本 博一
〒299-5503 千葉県鴨川市天津 770
東京大学科学の森教育研究センター千葉演習林
TEL 04-7094-0621

FAX 04-7094-2321

E-mail chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp

URL http://www17.ocn.ne.jp/~umizemi/

源流散策と水生昆虫採集・観察

秩父演習林&大滝げんきプラザ

日 程

平成 17 年 8 月 19 日(金)～21 日(日)

内 容

家族で水生昆虫観察、植物採集、天体観測等を行います。

参加費

大人 6,800 円、小中学生 5,800 円

参加対象

小中学生とその保護者

申込期間

8 月 1 日～8 月 12 日(定員 24 家族・先着順)

申し込み・問い合わせ先

埼玉県立大滝げんきプラザまで電話でお申し込みください。
〒369-1901 秩父市大滝 5944-2
TEL 0494-55-0014

土日見学利用の受付について

秩父演習林

秩父演習林では 7 月から 9 月の 3 ヶ月間、土・日も見学利用を受け付けています。林内の案内なども可能ですので御希望の日付と内容をあらかじめお知らせください。

詳しくは秩父演習林・企画調整係までご相談下さい。

TEL 0494-22-0272

E-mail chichibu@uf.a.u-tokyo.ac.jp

トピックス

第 11 回市民公開セミナーが
開催されました

北海道演習林

平成 15 年 6 月 5 日、第 11 回市民公開セミナーが開かれ、北海道の遅い春を市民の皆さんと楽しみました。当日は、遠くは兵庫県から、合

計 27 名の参加がありました。参加者は、神社山に設定された 3km ほどの散策コースをゆっくり歩き、里山の動植物について説明を受けながら、思う存分に森林浴を楽しみました。バスに乗って湧水場まで移動し、昼食を取りました。湧水場のマイナスイオンを一杯に浴びてリフレッシュした後は、いよいよお待ちかねのフキとりです。「こっちのフキが青い。こっちは良くない。」など、お気に入りのポイントでそれぞれに山菜採りを楽しみました。最後に、樹木園で堀削され研究中の活断層断面を観察しながら、富良野の歴史に思いを馳せて公開セミナーが無事終わりました。すがすがしい天気にも恵まれたこともあり、終了後の閉会式では、「気持ちが良かった、紅葉の時期も見てみたい。演習林に初めて入って感激した」などの感想を頂きました。



観察路の植物について説明を受ける参加者

公開講座「秩父山地の森林」

秩父演習林

6月11日に行われた今回の公開講座では、ブナ林と溪畔林の植物を中心とした講座を行いました。受講者の皆さんから意欲的に質問されながらの公開講座でした。

午前中はあいにくの小雨でしたが、ブナ林内にある観察鉄塔の下で秩父山地のブナ林についての講義と、鉄塔に設置したロボット・カメラを使った樹冠部の観察について説明がありました。午後は天気が回復し、入川軌道跡をゆっくり

り歩きながら溪畔林の森林と植物について講義がありました。

受講者が9人と少人数の公開講座であったので、説明が良く聞こえ、質問がしやすかったと受講者から大変好評でした。



鉄塔の下にて

ハーブの会—春の散策—

樹芸研究所

初夏の日差しも眩しい5月10日、伊豆ハーブの会の会員12人が青野研究林に散策に来ました。「伊豆ハーブの会」は伊豆を中心にハーブなどの植物を勉強する会です。今回の散策では、高上馬教員の解説で演習林内の林道を中心に身近な植物をはじめ、ハーブなど薬草に関する専門的な解説に熱心に耳を傾けながら、2時間ほど新緑の中を楽しく歩きました。



参加者に説明している様子

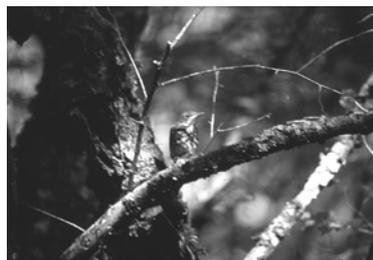
クロググミ

ツグミ科

学名： *Turdus cardis* Temminck

富士演習林

中西悟堂によって日本で初めての探鳥会が行われたのは昭和 9 (1934) 年、場所は須走 (静岡県) です。富士山麓は当時から魅力ある探鳥地として、多くの学者や詩人を受け入れてきていますので、野鳥を探し求める人々の逗留地、交流拠点となった山中湖は歴史のある探鳥地と言えましょう。その山中湖において見られるクロググミは、森林に繁殖し美しい声で鳴くことで知られ、2004 年より始まった山中湖 Mt. Fuji Birding Fest においてもシンボル鳥に指定されています。



写真：富士演習林のクロググミの雛 (1979 年、元富士演習林長・石田健先生撮影)

コラム

「キャビテーション」を解き明かせ！

田無試験地 坂上 大翼

生命にとって無くてはならない水。樹木の根から吸収された水は、幹・枝を通過して全身隅々の葉まで運ばれます。水の通り道 (道管・仮道管) は全体としてあたかも一つのパイプのようになっており、その中の水の柱が葉からの蒸散によって引っ張り上げられるため、水は運ばれます。ストローでジュースを飲むところを想像してみると良いでしょうか。通常、水の通り道は水で満たされていますが、この水の中に気泡が生じることがあります。これを「キャビテーション」と呼んでいます。キャビテーションが起きると、水柱を引っ張り上げる力が伝わらなくなるため、樹木は水を吸い上げられなくなります。



キャビテーションによって水が通らなくなった様子 (材線虫病罹病木)。色水を吸わせて水の通り道を染めた。白っぽい部分では水が通っていない。

近年、このキャビテーションが注目を集めています。生態的・生理的な意義もさることながら、樹木の病気においても重要な役割を果たしていることが分かってきました。萎凋病 (しおれて枯れる病気) として名高いマツ枯れ (マツ材線虫病) では、木の中の水の表面張力が低下することでキャビテーションが起こりやすくなり、このために枯れてしまうことが明らかになってきました。今後、キャビテーションが樹木の生活の中でどのような役割を果たしどのような意味を持つのか、その解明が期待されます。

林

科学の森ニュース (UT University Forests News)

第 29 号 (No.29)

発行日 平成 17 年 7 月 4 日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 永田 信

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林研究部

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

編集人 丹下 健

E-mail mori@uf.a.u-tokyo.ac.jp

